

これまでの70年長の人生で様々な人間像を見て来たが、簡単な様で簡単ではない「自分を探せ、自分のことは自分です」ことの視点についてです。

仏陀の教えから学ぶ。仏陀（釈尊、お釈迦様）は亡くなる時に弟子達に「自灯明 法灯明」と諭されました。「自灯明」とは、自分自身を信じて生きることです。すなわち、自分の価値観や考えを基軸として、他人の意見には左右されず、動揺せず、自身を拠り所として生きるということです。それでは、人に見付からなければ、脱法行為も何でも有りとなりはしないかとなります。そこで「法灯明」です。「自灯明」と同時に、仏の教えを示した法（真実のことば）を拠り処として生きることです。すなわち、客観的・普遍的に正しいこと・真理に基づくことです、「自灯明」を盾に身勝手な独善は許しません。つまり、自らを信じて生きるということは、中性不偏の「真・善・美」に依拠があってこそその生き方でありま

す。「真・善・美」を踏まえてこそその人間価値です。「中道正観」が心・言・行の中軸を、価値基準のど真ん中を為して生きる実践行です。独善と毒牙を振り回して「俺の信念」などというのは塵埃毒素をばら蒔いているに等しいのです。

1. 平成天皇自ら筆を執る

2019（H31）年3月23日（土）NHK総合テレビ「天皇 運命の物語③」の放映から。当時の侍従次長の手塚英臣さんの証言として、『**天皇陛下（今は、上皇陛下）が語られる言葉（文章）について、自ら考え、自らワープロに向かって打っていた、自ら推敲していた。**』ということです。宮内庁の職員に全て丸投げかと大変失礼なことを想像していたが、丸投げはしないのです、そのようなことを初めて知り感激しました。

図－1は、今の上皇が平成今上天皇を退位したいとしてビデオメッセージを寄せたプロセスの報道です、語る言葉について「陛下、（自ら）筆を執り推敲」したのです。

2. ある裁判長の説諭

2019（R元）年6月18日（火）、東京地裁において、コカインを使用した罪に問われたミュージシャンで俳優のピエール瀧被告に対する裁判長「説諭」の中で「・・・迷ったり悩んだりした時は、『人生』という言葉の意味を**自分の胸に手を当てて**考えてください」と話されました。

この事例に係らずほとんどの場合、「自分の胸に手を当てよ！」と諭されます、ここです！ 罪

に軽重はあるが、大香は一度たりとも罪を犯した人には同情しません、関心を持たないということです。学歴・知識云々では無く、一度たりとも一線を越えた人間も、普通の人として、「社会通念・公序良俗・善管注意義務」の物差しを持っていたはずですが、しかし、いかなる理由があるにせよ、越えてはならない一線を破り、他人に危害を加え、社会に迷惑をかけたのです。いくら謝ったとしても、危害を加え



図－1

る直前の状態に復元出来ません。100 歩譲って、お金で解決しようとなってもこちらの要求 100%を飲む人は皆無でありましょう。 警視庁を定年退職したある人から直接聞いたことです、再犯率云々を言うまでもなく、極々一部の人を除いて、前科者は生涯危険分子を内蔵して生きると言っていました。私が思うのに、一度の犯罪は、一度限りでも、仏性の心が深刻な傷を負うのでしょうか。万物の霊長たる生身の人間の心は、神社神道のいう禊ぎ・払いの儀式を持ってきれいに消えるものではありません、絶対に！

戻って、**同裁判長は、決して、総理大臣に聞けとか、国会議員に聞けとか、宗教者に聞けとか、広域コミュニティの何とか長に聞けとか、お友達に聞けとか、そんなことは一切出しません。「他人の胸に当てよ、他人を探せ」とは一言も言いません、ここです。『自分の胸』は「他者・ムレ・タマリ」への依存では磨かれませんが、『自分の胸』は自分で磨く他は無いのです、その上で「**自分を探せ**」です。こんなことを考えさせてくれた前出裁判長に敬意を表します。**

噂によると身近な吾が広域コミュニティにも同種の人間がウヨウヨいるらしい？ いました、私は傍で見て来ました。平成天皇の鼻くそでも齧ってやり直せ、とエール???を送（贈ではない！）りたい。

3. イチローのメッセージ

2019（H31）年3月に現役を引退したイチロー（マリナーズの会長付き特別補佐兼インストラクター）が12月22日（日）、愛知・豊山町の社会教育センターで行われた「イチロー杯争奪学童軟式野球大会」の閉会式に出席し、日本で9年、アメリカで19年間のプレーを踏まえて、野球少年・少女へメッセージを送った内容についてです。図-2はヤフーニュースから拝借しました。その中で一番印象に残ったのは「**自分で自分を教育しない**」と語りかけました、メディアでも大きく取り上げました。平たく言えば、自分のことは自分で磨け、自己研鑽、自己啓発に努めよということでしょう。あるいは、自助を以て自分らしさ、個性を育てよということでしょう。いやいや、私の表現は軽過ぎる、イチローはもっともっと奥深いことを訴えたかったのではないだろうか。真の教育者とは何ぞや、教育者たる原点とは何ぞや！ 怠惰に打ち勝つ克己心とは何ぞや・・・。



図-2

4. 町行政トップの施政方針

「【Zigzag-memo No15】施政方針と人事評価」に記述したが、西川町菅野大志町長は、2022年4月町長に就任、翌年度以降の**町政基本の施政方針の全文を自ら執筆して来た**ということでもあります。

一方、私のサラリーマン現役時代のことが浮かんで来ました。ある子会社でのこと、本体親会社から退職出向していたある取締役（役職は立派／北海道大学卒）は、1日中デスクに座り、新聞・雑誌・インターネットで日暮していました。自分の部門に係る経営理念や中長期計画を自ら策定すること——手書きで

も良いが、文章にすることが出来ませんでした。全体最適視点、全方位視点を踏まえ、論理的・体系的に自分の考え方を文字に起こせないのです。学歴偏重主義の親会社ではとんとんと出世したものの、権威主義を以て口先と指先だけで人を動かし、実務は全部を部下に指示し、させたものだから、そのような環境を離れたら何一つ出来なかったということなのです。内心ではすっかり軽蔑していました。

ここで思い出すのが『天は自ら助くる者を助く』という訓えです、「イソップ」の「牛追いとヘラクレス」が出典とのことです、神は自分自身で努力する人に手を差し伸べる。人に頼ろうとする前に先ず精一杯の自助努力をなささいという意味です。自分というものに向上心はあるのか、理想に向かって最大限の努力を払っているかという自問自答で藻掻^{もが}けという意味にも理解しています。自分の真我を探せない人が、詐欺にまんまと嵌まって後の祭りを楽しんでいる（騒動している）のです。テレビ、雑誌、地域コミュニティの何とか会から得る諸々の情報に賛否の感情だけで“えがった！ 悪がった”と騒いでいるようでは、特殊詐欺の格好の餌食になります。そこで確固たる自主独立を高めるためには、もの・ことの本質に迫る思索実践です。普段から何事も自らこの眼で認知する実行態度①、誠実で高潔・高貴な人を探し求める実行態度②、真善美の心を高める話題・情報を求める実行態度③のことです。もの・ことは実現させてこそ、経験を得てこそ生きがいや充実感です。ここで言う①～③の実行態度とは、足腰の悪い人までも走れとか、どこどこに行って来いとかそんな肉体的な 100%健常を要求するものではなく、身の丈の内で、読む・書く・考える・調べるなど、眼光紙背に徹する姿勢を以て納得するまで頭脳と心を使うことです。

ところで、**天皇や菅野町長の自ら行うということの事例をあげると、必ずや “トップが、あるいは、管理職がみな実践すると部下が育たない、だから、トップ（リーダー）は手を出してならない” という声です。もっともらしい、一面は正しいでしょう。しかし、[2・6・2] 適用の 8 割（その声の大半）は “実は私は書けないのだ、能力がないのだ” と白状しているに等しいのです。つまり、衆目が視聴するに耐得る文章を書けないということでもあります。**

天皇にしても、裁判長にしても、イチローにしても、菅野大志町長にしても、仏陀の教え「自灯明 法灯明」を租借し、不断の自分探しを行えばこそに発露された至誠です。「自灯明」－自らが使命を意気にかけて自己探求にまい進し、しかし、それをそこで留めず、「法灯明」－積極的に社会奉仕・公共の福祉に献じて行く、このような知行合一 ――「知は行の始なり、行は知の成るなり（知ることは行為の始めであり、行為は知ることの完成である）、行動を伴わない知識は未完成である、知識を伴わない行動は軽率（軽挙妄動）である。」の意である――の実践が自分を探せという自己の叫びとなるのでしょうか。「私」と「公」の往来・往復の正念が日常的で当たり前の人に敬意を表します。

(end)